

2014 年度 武蔵大学 FD 関連資料

1. 会議記録等（委員名簿、FD 委員会議題、FD 実施委員会議題）

【2014 年度 FD 委員会】

役職	氏名
委員長	山寄 哲哉 (学長)
副委員長	清水 敦 (FD 実施委員長)
委員	黒坂 佳央 (経済学部長、経済学研究科委員長)
	踊 共二 (人文学部長、人文科学研究科委員長)
	小田原 敏 (社会学部長)
	川島 浩平 (教務部長)
	東郷 賢 (学長補佐)

FD 委員会議題

■ 第 1 回 FD 委員会議題

2014 年 4 月 10 日(木) 12 時 10 分～

<審議事項>

A-1 武蔵大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程一部改正の件

A-2 平成 26 年度 FD 関連行事開催日程の件

A-3 平成 26 年度授業評価アンケートの件

■ 第 2 回 FD 委員会議題

2014 年 7 月 22 日(木) 12 時 00 分～

<審議事項>

A-1 平成 27 年度「学生による授業評価アンケート」後学期実施の件

A-2 「学生が選ぶベストレクチャー賞」制度の件

<報告事項>

B-1 第 1 回 FD 研修会について

■ 第 3 回 FD 委員会議題

2014 年 11 月 25 日(木) 12 時 00 分～

<審議事項>

A-1 FD 組織改編の件

A-2 授業評価アンケート 2 次分析の件

■ 第 4 回 FD 委員会議題（回議）

2015 年 1 月 20 日(木)

<審議事項>

A-1 武蔵大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程一部改正の件

A-2 武蔵大学「学生による授業評価アンケート」取扱内規一部改正の件

【2014 年度 FD 実施委員会】

役職		氏名
委員長		清水 敦
委員	経済学部	杉本 伸
		田中 健太
	人文学部	漆澤 その子
		武田 信子
	社会学部	石森 大知
		奥村 信幸
	経済学研究科	杉本 伸（兼務）
	人文科学研究科	小川 栄一

FD 実施委員会議題

■ 第 1 回 FD 実施委員会

2014 年 4 月 17 日(木) 12 時 15 分～

<議題>

- 1 平成 25 年度 FD 実施委員会体制について
 - (1) 委員について
 - (2) 開催日程等について
 - (3) 業務分担について
- 2 平成 26 年度授業評価アンケートについて
- 3 武蔵大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程一部改正について

■ 第 2 回 FD 実施委員会

2014 年 5 月 22 日(木) 14 時 40 分～

<議題>

- 1 平成 26 年度授業評価アンケート運用について
- 2 第 1 回 FD 研修会について
- 3 大学院 FD 懇談会について

■ 第 3 回 FD 実施委員会議題

2014 年 6 月 19 日(木) 14 時 40 分～

<議題>

- 1 大学院 FD 懇談会について
- 2 第 1 回 FD 研修会について
- 3 平成 27 年度後学期授業評価アンケートの実施について

■ 第 4 回 FD 実施委員会議題

2014 年 10 月 16 日(木) 14 時 40 分～

<議題>

- 1 第 1 回 FD 研修会について
- 2 FD 活動報告書について
- 3 授業評価アンケートの分析について

4 大学院 FD 懇談会報告

■第 5 回 FD 実施委員会議題

2014 年 11 月 27 日(木) 14 時 40 分～

<議題>

- 1 FD フォーラムについて
- 2 FD 委員会報告

■第 6 回 FD 実施委員会議題

2015 年 1 月 23 日(木) 14 時 40 分～

<議題>

- 1 FD フォーラムについて (担当者報告)
- 2 武蔵大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程一部改正について
- 3 武蔵大学「学生による授業評価アンケート」取扱内規一部改正について
- 4 FD 研究員成果物レポートまとめ冊子の内容について

2. FD 研究員報告

FD 先進校レポート：関西大学「コラボレーションコモンズ」

日時：2014 年 11 月 14 日（金）

場所：関西大学

対応：岩崎 千晶 氏（教育推進部教育開発支援センター）

中田 裕己 氏（学事局 授業支援グループ）

<視察の目的>

学生の主体的な学びや授業外学習時間の支援としてなど、ラーニング・コモンズが注目されているが、2014 年にオープンした関西大学の『コラボレーションコモンズ』は先端的なコモンズとして各方面で注目されており、その経緯や施設の仕組みや運営、考え方などをお伺いした。

<施設の概要>

この施設は文部科学省の平成 24 年度私立大学教育研究活性化設備整備事業に、学生会館（凜風館）1 階の学生ラウンジを『コラボレーションコモンズ』として開設する案が採択されたものである。これまでに採択された教育 GP やボランティアセンターの活動など、関西大学独自の取り組みを集結させ、学生たちの活発な“コラボレーション”を誘発し、学生の「考動力」の育成を目指している。コラボレーションの目的や特色に応じて、多目的スペースのコラボレーションエリアと、6 つの専門エリアを設けている。学生、学生スタッフ、教員、職員など、さまざまな立場の「関大人」が関わるため、多面的なコラボレーションの実現が想定されている。6 つのエリアは次のような仕様になっている。

①コラボレーションエリア

多目的スペース。くつろぎながら新聞や雑誌を読めるコモンズラウンジを配置。コモンズの全域には無線 LAN を構築しており、各エリアの利用案内、PC・iPad 貸出などを担う KU コンシエルジュの事務員が 3 名常駐して、ICT を活用した学習をサポートする。

②ライティングエリア

レポート作成に役立つ「ラーニング Cafe」を開催。文章作成スキル向上を多面的に支援。ロールスクリーンで、一時的に遮蔽してゼミなどの発表練習にも使える。

③グローバルエリア

学生スタッフによる留学チューターが留学に関する質問・相談に学生目線で対応。留学生による会話交流会、外国語学習ワンポイント講座、留学情報の提供、留学生向け生活支援などを実施している。

④ボランティアエリア

ボランティア活動全般の情報交換窓口。ボランティアに関心のある学生同士の交流を促進している。

⑤ピアエリア

学生が学生を支援するピア・コミュニティの活動拠点。ピア・サポート活動を盛り上げるミーティングや各種企画を展開している。

⑥ICT エリア

ハイスペックのパソコンや iPad を常備。ゼミや研究室、課外活動のための動画の編集、冊子の制作をはじめ、マルチメディアを駆使したプレゼンテーション資料の作成が行える。プログラミングソフトなどもインストールされている。学生証の提示無しにこれら機器を使用することができる。

⑦ラーニングエリア

プロジェクター、モニター、ホワイトボードなどを配置。ゼミでの学習、サークルや課外活動の勉強会、研修など、グループワークを実施しやすい環境を整えている。コラボレーションエリア全体で、静かな場所に配置され施設設計のセンスが感じられる。

自由学習空間として授業外学習を支援するに留まらず、課外活動、飲食なども可能である。単に使用目的別というだけでなく、使い勝手の良い汎用性にも富み、かつ什器備品のデザインやレイアウトにも細かく意味があり洗練されている。授業外学習時間の支援はもちろん、学生生活を充実させる課外活動までをサポートする学生の“居場所づくりのアイデアが満載である。

一方で、コラボレーションという教育設計が根幹にあるため、それぞれの活動がお互いに見えるような配置が工夫されている。ゼミにおける発表練習などを想定して、ロールスクリーンやパーティションが使い勝手よくあるが、完全に個室化しないような設計になっている。今後計画されている図書館のラーニング・コモンズの改築と併せて、自由学習空間の目的に応じた使い分けがより明確になり、学生の主体性を刺激する仕掛けがさらに充実していくようである。



コラボレーションコモンズはこの施設の 1F



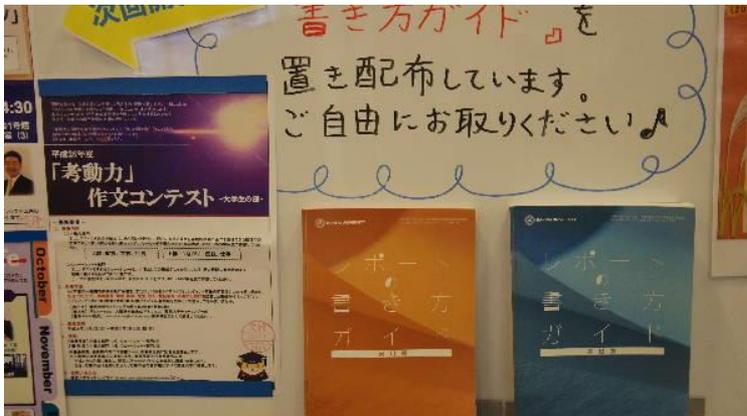
580 席、7 の目的別エリアがあり、座席のそばには必ずホワイトボードが設置されている



ラウンジのソファは人気で、勉強だけでなく“大学での居場所”も上手に提供している



ゼミ発表練習などで使えるモニターも各所に設置



教育的なイベントインフォメーションのほか、初年次教育的な冊子の配付も行っている

(文責：FD 研究員 新宅 広二)

学生が選ぶベストティーチャー賞

本年度、全学部で実施した「学生による授業評価アンケート」の結果をもとに、学生の授業満足度が高い教員を選出し顕彰を行った。

評価対象

1. 講義科目のみ
2. 各担当科目の履修者数に対して60%以上のアンケート回収率のあった授業
3. 回答者数が10名以上の授業

顕彰方法

1. 各授業の回答者数に応じて、小規模授業の部、中規模授業の部、大規模授業の部の3つのカテゴリーに分けて集計し、カテゴリーごとに授業満足度が上位であった教員を選出。

2014年度の「学生が選ぶベストティーチャー賞」受賞者は12名が選出され、受賞者には2014年8月25日に、学長より賞状と副賞が授与された。

ベストティーチャー賞は、授業内容を客観的に評価するものとして注目され、受賞者のさらなる教育意欲向上につながるほか、授業アイデアをFD的に情報共有することで、とりわけ教員歴の浅い新任教員などには教育力向上のヒントになり有益である。一方で課題も多く、

- ・ 何らかの条件をつけないと同じ教員（または科目）に偏ってしまう。
- ・ 前年度の受賞者が次年度受賞しないと、教育力が下がったように見えて誤解を生む。
- ・ 教員には不可抗力な学習環境（受講者数と教室等）の悪影響を考慮しにくい。
- ・ 試験内容や出席が甘いことがアンケートの高評価になる事がまれにある。

などが、しばしば他大学の実施結果で指摘されることがある。次年度以降はFD委員会で発展的に効果や課題を検証する必要があると思われる。また、来年度から導入される授業収録システムにより、本賞と関連づけたFDとしてモデル授業を収録し、新任教員研修やFD研修会として、全学的に教職員間で情報共有できるようになることも有効と思われる。

(文責：FD 研究員 新宅 広二)

2014年度「学生が選ぶベストティーチャー賞」受賞者

大規模授業の部	田中 俊之	社会調査方法論基礎1
	森 健一	スポーツと健康の科学/からだの科学と健康
	嶋内 博愛	ヨーロッパの神話と伝説1/比較口承文芸論1
	海老原 崇	簿記演習1/簿記演習I、財務報告論1/財務報告論I
中規模授業の部	庭山 雄吉	英米の社会1
	武田 信子	教育心理学1/教育心理学[1]、教育心理学1/教育心理学[2]
	玉置 佑介	社会学情報処理基礎
	竹内 雅俊	国際法1/国際法I
小規模授業の部	齋藤 一晴	社会科・地歴科教育方法論2/社会科教育方法論AII
	菊池 尚代	第二言語習得論1
	福田 正雄	証券アナリスト/証券・金融アナリスト(証券分析I)
	奥村 信幸	ジャーナリズム論

3. 事業報告書／事業計画書

【はじめに】

第二次中期計画の中で、FD活動については2項目が重点事業として位置付けられている。FDの積極的展開、FD実施体制の整備、という諸項目である。この第二次中期計画を元に、来年度の事業計画として以下の事業が立てられた。これは今後のFD活動にとっても重要な資料となるので、今年度の総括と来年度への課題という形で整理し、掲載することにした。

【1】FD（ファカルティ・ディベロップメント）研修と大学院FDの充実

①目的・概要	FD（ファカルティ・ディベロップメント）研修及び大学院FDの充実を図る。
②活動計画	①4月に新任教員のFD研修会を実施する。 ②研修会および懇談会の開催を行う。内容としては、学生参加のFDフォーラム、大学院FD懇談会、FD研究員報告会を実施する。 ③上記②の各会で出された意見を集約し、検証を行い、改善案を作成する。
③実施結果	①4月1日に新任教員のFD研修会を実施し、学長より建学の精神と合わせて将来構想についての説明を行った。 ②8月1日に大学院FD懇談会、10月30日にFD研修会、2月26日に学生参加のFDフォーラム、3月25日にFD研究員報告会を開催した。 ③大学院FD懇談会では、昨年度同様多くの要望が出され、両研究科委員長、FD実施委員会委員及び大学庶務課員が出席したことでその場で改善案を提示できた。
④分析	FDフォーラムの開催時期が遅く、学生教職員の参加者が少ないため、来年度は時期を10月～11月に早める。これに伴い、FD研修会も5月～6月に早める。
⑤来期の計画	①新任教員のFD研修会を4月に実施する。 ②FD研修会を5～6月に開催する。 ③大学院FD懇談会を7月～8月に開催する。 ④学生FDフォーラムを10月～11月に開催する。 ⑤FD・SDスキルアップ研修会、又は授業事例アイデア共有FD研修会を開催する。

【2】授業評価アンケートの展開

①目的・概要	授業評価アンケートの改善を図る。
②活動計画	授業評価アンケートの有効活用を検討する。 ①昨年同様、アンケート結果を関連部署へ伝え、結果をWebで公表する。 ②ベストティーチャー賞の選考基準を設け表彰を行う。 ③教務課と連携したアンケート結果の2次分析を実施する。
③実施結果	①アンケート分析結果をFD活動報告書に掲載して教職員に配付

	<p>し、大学Webサイトの「FD活動」内に公開した。また、アンケートの自由記述欄に書かれた施設関係の改善要望をまとめて財務部に提言を行い、『FD活動報告書』に掲載し、Webで公表した。</p> <p>②FD委員会で「学生が選ぶベストティーチャー賞」の選考基準を策定し、各学部4名、計12名の教員に表彰を行った。</p> <p>③2次分析は教務課と検討したが、教務課案は規程上の問題で採用できず、FD実施委員会の提案で授業外学習時間の2次分析を行い、大学戦略会議で報告を行った。</p>
④分析	<p>授業評価アンケートの実施回数を、FD委員会及びFD実施委員会で検討し、次年度より前学期1回から前後学期の年2回に戻すことになった。なお、後学期は全員対象ではなく、後学期のみ授業を担当する教員を対象に行うこととした。</p> <p>ベストティーチャー賞の選考方法は、複数の設問で総合的に判断する形に変更する。</p>
⑤来期の計画	<p>①授業評価アンケートを前後学期の年2回実施する。後学期は後学期のみ授業を担当する教員を対象に行う。</p> <p>②ベストティーチャー賞の新たな選考基準を策定して実施する。</p> <p>③教務課と連携し、アンケート結果の2次分析を実施する。また、アンケートの設問内容の検討を行い、必要があれば変更する。</p> <p>④アンケートの分析結果を具体的な形としてカリキュラム改善等に反映させる。</p>

【3】他部局との連携によるFD活動の多角化を図る

①目的・概要	武蔵大学独自のFDの確立と情報発信力の強化
②活動計画	<p>①本学の教育コンテンツを資料にまとめて学内で共有する。</p> <p>②他大学、教育系諸学会の情報等を収集し、学内で共有する。</p>
③実施結果	<p>①『武蔵大学 FD Today』という小冊子を作成していたが、年度内の発行には間に合わなかった。</p> <p>②大学戦略会議でFD研究員報告会を行った。</p>
④分析	学内の教育活動の点検・調査を行うため、アクティブ・ラーニング型教室についての活用調査、授業収録システムの活用調査を行う。
⑤来期の計画	<p>①奨学生アンケートや授業評価アンケートなどから、問題点や満足度の抽出・分析を行う。</p> <p>②アクティブ・ラーニング型教室、授業収録システム等の学修支援に関する設備の活用調査を行い、改善策を提案する。</p> <p>③FD研究員によるFD調査報告を大学執行部メンバー及びFD委員を対象として定期的で開催し、上記①・②の取り組みに加え、他大学のFD活動状況や教育系諸学会の情報等について報告する。</p>